

●技術情報

Q&A

[10] 注意事項

●●●国産石灰窒素の農業登録と使用上の注意●●●

日本国内で生産される石灰窒素は、すべて農業登録を取得しており、現在「石灰窒素40(粒)」「石灰窒素50(粉)」「石灰窒素55(粒)」の3剤が流通しております(数字はシアナミドの含有量を表しています)。

●国産石灰窒素の農業登録内容(令和4年6月現在)

| 作物名 | 適用病害虫名(雑草) | 使用量 | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 石灰窒素を含む農業の総使用回数 | |
|-------------------|-----------------------|-----------------------------|---------------------|---------|--|-----------------|----------------------------|
| 水稲 | ユリミミズ | 40~60kg/10a | は種前又は植付前 | 1回 | 散布後土壌混和 | - | |
| | ザリガニ スクミリンゴガイ | 20~30kg/10a | 植代前 | | 散布 蒸起し後3~4cmに 湛水し、3~4日後全面に 散布、3~4日放置後種代 を行う。(漏水を防止する こと) | | |
| | スクミリンゴガイ | | 刈取後 (水温15℃以上の時期) | | 散布 3~4cmに湛水し、 1~4日後全面散布、 3~4日放置する。(漏水 を防止すること) | | |
| | ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿田) | 40~50kg/10a | 水稲刈取後 1週間以内 | | 全面散布 | | |
| 水田作物 (水田刈跡) | 水田一年生雑草 | 30~70kg/10a | は種前又は植付前 | | - | | 散布 |
| | | 50~70kg/10a | 水田作物刈取後 | | | | |
| れんこん | スクミリンゴガイ | 60~100kg/10a | 植付前 | | - | | 散布後土壌混和 (7日間以上放置後種代を行う) |
| はくさい キャベツ | 根こぶ病 | 100~200kg/10a ^{*3} | は種前又は植付前 | | - | | 散布後土壌混和 |
| 野菜類 ^{*1} | センチュウ類 | 50~100kg/10a | は種前又は植付前 | | - | | 散布後土壌混和 |
| 麦類 | 一年生雑草 | 50~70kg/10a | は種前 | | - | | 散布 |
| 桑 | カイガラムシ類 胴枯病 | 温湯10L当たり 400~800g/10a | 7月下旬~10月上旬 | - | 上澄液を株又は枝条 の基部に散布する。 | | |

| 作物名 | 使用目的 | 使用量 | | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法 | 石灰窒素を含む農業の総使用回数 |
|---------------------|------|-------------|----------|-------|---------|-----------------------|-----------------|
| | | 薬量 | 希釈水量 | | | | |
| ばれいしょ ^{*2} | 茎葉枯凋 | 10~15kg/10a | 100L/10a | 茎葉黄変期 | 1回 | 茎葉散布 (上澄液) 茎葉散布 | - |

*1 野菜類には豆類(種実、未成熟)、いも類が含まれます。 *2 対象剤は石灰窒素50(粉)のみです。
*3 作型、品種、土壌条件に応じて使用量を決めてください。

△使用上の注意

| 使用面 | 安全面 |
|--|---|
| <p>① は種又は移植に当り、暖地では3~7日前、寒地では7~10日前に施して土とよく混ぜること。</p> <p>② 農業として使用する際は、肥料として窒素過多にならぬよう、窒素肥料全体としての使用量に注意すること。</p> <p>③ 使用量に合わせ秤量し、使いきること。</p> <p>④ 雑草防除の時は、田畑共耕起の前に施し、耕起しない田では、刈り取り後に施すこと。</p> <p>⑤ 使用するとき、他の作物にからかぬように注意すること。</p> <p>⑥ 水稲のザリガニ、スクミリンゴガイ防除用途に使用する場合は、湛水状態で均一に散布し、散布後少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑦ れんこんのスクミリンゴガイ防除に使用する場合は、散布後土壌混和し、少なくとも7日間はそのまま湛水状態を保ち、落水、かけ流しはしないこと。</p> <p>⑧ ノビエ種子の休眠覚醒に使用する場合は、下記の注意を守ること。 ・稲刈り後、落下ノビエ種子が乾燥前(土壌湿潤状態中)に石灰窒素を散布すること。 ・石灰窒素の主成分シアナミドが溶解し、ノビエ種子に吸収できる水分を保有する環境であること。 (稲刈り取り後の地下水位10~20cm地帯) ・石灰窒素によって処理されたノビエ種子が覚醒発芽し得る温度(平均温度15℃以上)を15日以上保てる気温の地帯であること。 ・4~5年適用することによって効果を確保する。</p> <p>⑨ 桑に使用する場合は、本剤を所定量の温湯に加え十分攪拌し溶解させた後、その上澄液を株又は枝条の基部に十分散布すること。 桑に使用した当日は葉に桑葉を給餌しないこと。</p> <p>⑩ 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。</p> | <p>① 誤飲、誤食などのないよう注意すること。 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の手当てを受けさせること。 本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当てを受けること。 (小児の手の届くところには置かない)</p> <p>② 本剤は眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意すること。 眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当てを受けること。</p> <p>③ 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意すること。 付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。</p> <p>④ 散布液調整時及び散布の際は保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防護衣などを着用すること。 また、薬剤を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換すること。</p> <p>⑤ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。</p> <p>⑥ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けること。</p> <p>⑦ 夏期高温時の使用を避けること。 散布後24時間以内は飲酒はしないこと。 ⑧ 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。 ⑨ 水産動植物(魚類・甲殻類・藻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。</p> <p>⑩ 吸湿性があるため、防水に留意し、雨濡れ、浸水等の恐れのない場所に保管すること。 ⑪ 火災時は保護員を着用し水・消火剤等で消火に努めること。 ⑫ 漏出時は保護員を着用し拭き取り回収すること。 ⑬ 移送取扱いは行わないこと。</p> |